

科目名	感染と予防Ⅱ (病原体と治療・予防)					DP4 DP6		看護高等課程	
学年	1 年	分野	専門基礎 疾病の成り立ち	時間数	22 時間	担当 教員	中西 亮太 (12) 藤崎 大整 (10)		
科目 概要	近年、感染症は大きく変貌してきている。感染経路の多様化や抗生物質耐性菌の問題もさらに深刻さを増し、感染防止を目的とした看護業務の必要性が求められている。ここでは、感染と発病の基礎知識を踏まえて病原微生物による感染症の治療について学ぶ。								
到達 目標	1. 主な病原微生物と治療について理解できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1～3	感染症法・検疫法		感染症法による感染症・病原体の分類、検疫法				講義	中西	
	感染予防		感染予防の基本的な考え方、院内感染防止法、滅菌と消毒・感染性廃棄物の取り扱い				講義		
	感染症の検査・診断・治療		化学療法、受動免疫				講義		
5～9	感染症の原因となる病原微生物		細菌（細菌の基礎、主要な細菌）、ウイルス（ウイルスの形態・分類・検査法、代表的なウイルス） 真菌（真菌の特徴・検査法、主要真菌）、原虫、プリオン				講義	藤崎	
10～12	主な疾患とその治療		呼吸器感染症、肝・胆道感染症、尿路感染症、循環器系における感染症、中枢神経系感染症 ウイルス感染症、腸管感染症				講義	中西	
			原虫感染症、寄生虫感染症、敗血症、皮膚・軟部組織感染症				講義	中西	
	試験		ゆとり時間				試験		
評価 基準	中西（50 点）、藤崎（50 点）の計 100 点満点とし、6 割以上を合格とする。また、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。								
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、筆記試験などで総合的に評価する。								
教科書	看護学入門 3 疾病の成り立ち 看護学入門 9 成人看護Ⅱ 必要時、資料等は配布する。								
履修上の 注意点									